

令和3年度病害虫発生予報第6号

令和3年9月1日
山梨県病害虫防除所

今月の天気予報

8月26日気象庁発表、1か月予報による関東甲信地方の向こう1ヶ月（予報期間8月28日～9月27日）の天気は次のとおりです。

向こう1か月の気温は、ほぼ平年並でしょう。1週目は高く、2週目は平年並の見込みです。

向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並でしょう。

I 特に注意が必要な病害虫

【果樹】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
ブドウ	晩腐病	—	平年並 ～ やや多い	<p>○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1か月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。</p> <p>□着色期以降の発病果粒は二次伝染源になるため、見つけ次第除去する。袋をかけてある園でも、発病した果粒が袋内で感染を拡大させるので、発病が見られる場合は改めて見直しの摘粒を行う。</p> <p>□ブドウ晩腐病防除マニュアル（令和2年12月発行）、令和3年度病害虫防除所情報第1号を参考に、防除対策を行う。</p> <p>防除所情報第1号「ブドウ晩腐病の防除対策について」 https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/69805589938.html</p>
抑制トマト	黄化葉巻病	やや早い	やや多い (例年比)	<p>○8月下旬現在、本病を媒介するタバココナジラミの巡回ほ場（生育初期）での発生は例年よりやや早く、発生量はやや多い。</p> <p>□発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋に入れて、コナジラミ類を死滅させ、枯らしてから施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処理する。</p>
	コナジラミ類	—	やや多い (例年比)	<p>○8月下旬現在、黄色粘着トラップほ場（中央市）におけるコナジラミ類の誘殺量は、例年に比べやや多く、巡回ほ場においても発生が見られている。</p> <p>○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。</p> <p>□ウイルス病を媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、施設開口部（天窓、側窓、換気扇口等）はすべて0.4mm目以下の防虫ネットで被覆する。出入り口は二重カーテンにするなどして、侵入を防止し、ネットの隙間や経年劣化の穴がないかなど、施設の点検を励行する。</p> <p>□黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の誘殺状況を確認し、発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p> <p>□施設内外の雑草は、コナジラミ類の増殖源となるため、除草を徹底する。また、芽かきした茎葉は適切に処理する。</p> <p>□ウイルス病の発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋に入れてコナジラミ類を死滅させ、枯らしてから施設外に持ち出し、適切に処分する。</p>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

II 各作物の病害虫発生予報

【果樹】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠 (○) 及び防除上注意すべき事項 (□)
ブドウ	べと病	—	平年並	<p>○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1カ月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。</p> <p>□定期的なボルドー液等での予防散布を実施する。併せて新梢管理（摘心など）を徹底し、副梢等に薬液が付着するように棚上散布も行う。</p> <p>□発病葉等は伝染源になるため、見つけ次第除去する。</p> <p>□収穫が終了した園では、収穫後の防除を早め実施する。</p>
	さび病	—	平年並	<p>○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○前年の発生量は、平年並であった。</p> <p>□ボルドー液による防除を徹底し、収穫後も必ず防除を行う。</p> <p>□果実袋を使わずに、カサかけで栽培した園では、葉裏へのボルドー液を散布していないため、収穫後の防除を徹底する。</p>
	チャノキイロ アザミウマ	—	平年並	<p>○8月下旬現在、黄色粘着トラップ（南アルプス市）への誘殺数は、やや少ない。</p> <p>○向こう1カ月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。</p> <p>○有効積算温度（発育零点9.7℃、発育上限33℃、2275.1日度。出典：日本植物防疫協会）による予測発生時期は、第7世代成虫が9月11日頃となる見込みである。</p> <p>□収穫前の品種や収穫が長引く園では、薬剤の散布間隔が空かないよう、収穫前日数等に注意し定期散布を行う。</p> <p>□新梢先端への寄生が多いので、新梢管理（摘心など）を実施し、棚上からも薬剤を充分散布する。</p>
	クロコナ カイガラムシ	—	平年並	<p>○8月下旬現在、県下各地における発生量は平年並である。</p> <p>□9月に3回目のふ化幼虫が発生するので、収穫期が遅い品種や例年発生が多い園、雨除けハウス（含む簡易雨除け）等では、この時期の防除も徹底する。</p>
モモ	せん孔細菌病	—	平年並	<p>○8月下旬現在、常発地域（主に中北地域）の一部において発病した葉が認められる。</p> <p>○向こう1カ月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。</p> <p>□発病葉は二次伝染源となるため、速やかに除去する。</p> <p>□台風等に伴う強風や降雨により感染が拡大し、越冬する病原細菌が増える恐れがある。</p> <p>□樹冠拡大や骨格枝を育成する若木では、発病枝の剪除を徹底する。</p> <p>□Ⅲ各病害虫対策ならびにモモせん孔細菌病防除マニュアル（令和2年12月発行）を参考に防除対策を徹底する。</p>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

【果樹】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠 (○) 及び防除上注意すべき事項 (□)
モモ	モモハモグリガ	—	平年並	<p>○8月下旬現在、フェロモントラップ（韮崎市、山梨市、笛吹市）における誘殺数は平年並からやや少ない。</p> <p>□本種は年間発生回数が多く、急激に密度が上昇するため、園内の発生状況に注意する。</p> <p>□収穫後の防除も徹底する。</p>

※モモハモグリガのトラップ調査結果はこちら

<http://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/92111468716.html>

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠 (○) 及び防除上注意すべき事項 (□)
抑制トマト	灰色かび病	平年並	平年並	<p>○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1カ月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。</p> <p>□施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を行い、施設内の湿度低下に努める。</p> <p>□早期発見に努め、り病した葉・花卉・果実は除去して施設外に出し、処分する。</p> <p>□前年多発した施設では発生に注意し予防散布に努める。</p>
	葉かび病	平年並	平年並	<p>○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1カ月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。</p> <p>□施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を行い施設内の湿度低下に努める。</p> <p>□多発生すると防除が困難なため、早期発見に努め、初期防除を徹底する。</p> <p>□発病した葉は伝染源となるため、除去して施設外に出し、処分する。</p> <p>□葉かび病抵抗性品種でも発病する葉かび菌が発生しているため、抵抗性品種でも葉かび病の症状が出ていないか注意する。</p>
	すすかび病	並 (例年比)	並 (例年比)	<p>○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は前年並である。</p> <p>○向こう1カ月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。</p> <p>□施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を行い施設内の湿度低下に努める。</p> <p>□多発生すると防除が困難なため、早期発見に努め、初期防除を徹底する。</p> <p>□発病した葉は伝染源となるため、除去して施設外に出し、処分する。</p> <p>□葉かび病と似ているため、防除には両方に登録のある薬剤を利用する。</p>
	疫 病	平年並	平年並	<p>○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1カ月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。</p> <p>□施設内の換気を図り、かん水量を控え、過湿にならないようにする。</p> <p>□早期発見に努め、り病した茎葉・果実は除去して施設外に出し、処分する。</p> <p>□窒素過多にならないようにする。</p>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
夏秋トマト	疫 病	—	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □早期発見に努め、発病した茎葉・果実は除去し処分する。 □予防散布に努める。
	シロキイロアザミヤ (白ぶくれ)	—	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量はやや多い。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。 □ほ場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底する。
	コナジラミ類	—	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □ほ場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底する。 □黄色粘着板へのコナジラミ類の誘殺状況を確認し、適期防除に努める。
	オオタバコガ	—	やや多い	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並からやや多い。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □老齢幼虫には薬剤の効果が低いため、発生初期の防除を徹底する。 □幼虫は果実内部に食入し、農薬がかかりにくくなるため、作業の際にはほ場をよく観察し、食害痕や虫糞を目安に幼虫の早期発見に努める。
抑制キュウリ	べと病	平年並	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。 □施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を十分に行い、施設内の湿度低下に努める。 □多発すると防除が難しくなるため、発生初期の防除を徹底し、発病した葉は除去して施設外に持ち出し処分する。
	うどんこ病	平年並	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。 □早期発見に努め、発病した葉・果実は除去して施設外に出し、処分する。 □多発すると防除が難しくなるため、予防防除に重点を置く □同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
	灰色かび病	平年並	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。 □施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を行い、施設内の湿度低下に努める。 □早期発見に努め、発病した葉・花卉・果実は除去して施設外に出し、処分する。 □前年多発した施設では発生に注意し予防散布に努める。

※オオタバコガのトラップ調査結果

<http://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/00035185449.html>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
抑制 キュウリ	褐斑病	平年並	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1カ月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。 □施設内が高温多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を十分に行う。 □予防散布を徹底し、発病した葉は早期に除去して施設外に出し、処分する。 □カンタスドライフロアブル、ベルコートフロアブルは一部に耐性菌が確認され、今後の耐性発達が懸念されるため、連用を避ける。
	アブラムシ類	平年並	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。
	ハダニ類	平年並	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。 □薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 □葉の裏に多く寄生するため、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。
夏秋 キュウリ	べと病	平年並	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1カ月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。 □予防散布に努める。 □早期発見に努め、り病した葉は除去して処分する。
	斑点細菌病	平年並	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □曇雨天が続くと発生が多いため注意する。 □予防散布に努める。 □病葉は早期に摘み取る。
	うどんこ病	平年並	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □予防散布に努める。 □早期発見に努め、り病した葉は除去して処分する。
	炭疽病	平年並	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □発病後の防除は効果が劣るため、予防散布に努める。 □早期発見に努め、り病した葉は除去して処分する。 □窒素過多は発病を助長するため、施肥量に注意する。
	アブラムシ類	—	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
夏秋キュウリ	ハダニ類	—	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。 □薬剤による抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	アザミマ類	—	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並からやや多い。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。 □ほ場周辺の雑草は発生源となるので除草を徹底する。
夏秋ナス	褐色腐敗病	—	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並からやや多い。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □ほ場の排水性を良好に保つ。 □降雨中に収穫した果実は乾いてから箱詰めする。
	うどんこ病	—	並 (例年比)	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は例年並である。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □予防散布に努める。 □早期発見に努め、り病した葉は除去して処分する。
	ハダニ類	—	並 (例年比)	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は例年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。 □薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 □葉の裏に多く寄生するため、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。
	アザミウマ類	—	並 (例年比)	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は例年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。 □ほ場周辺の雑草は発生源となるので除草を徹底する。
	ハスモンヨトウ	—	平年並	○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○8月下旬現在、夏秋ナスほ場（笛吹市）におけるフェロモントラップへの誘殺数は平年並である。 □作業の際にはほ場内をよく観察し、卵塊やふ化後分散する前の若齢幼虫を見つけ次第捕殺する。 □老齢幼虫には薬剤の効果が低いので、若齢幼虫のうちに早期防除を徹底する。

※ハスモンヨトウのトラップ調査結果

<http://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/00035185449.html>

※オオタバコガのトラップ調査結果

<http://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/00035185449.html>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
夏秋ナス	オオタバコガ	—	やや多い	<ul style="list-style-type: none"> ○8月下旬現在、現地ほ場（甲府市、笛吹市）における発生量は平年並からやや多い。 ○8月下旬現在、夏秋ナスほ場（甲府市、笛吹市）におけるフェロモントラップへの誘殺数はやや多い。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □平坦地では、例年9月上旬から第三世代成虫が発生する。成虫の発生後は産卵と幼虫が見られるため、幼虫の食害痕や虫ふんを目安に早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
	黒腐病	—	やや多い	<ul style="list-style-type: none"> ○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量はやや多い。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □台風、大雨の後に発生が多いため注意する。 □予防散布を徹底する。 □収穫後の残さは丁寧にかたづけ、焼却処分する。 □アブラナ科野菜の連作を避ける。 □耐病性品種を用いる。
キャベツ・アブラナ科野菜	菌核病	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ○8月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □曇雨天が続くと発生が多いため注意する。 □予防散布を徹底する。 □発病株は早期に除去する。
	コナガ	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ○8月下旬現在、巡回ほ場（鳴沢村）における発生量は平年並である。 ○8月下旬現在、キャベツ（鳴沢村）定点調査ほ場におけるフェロモントラップへの誘殺数は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □薬剤に対する抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 □鳴沢地域において、フェニックス顆粒水和剤、プレバゾンフロアブル5、マッチ乳剤、ハチハチ乳剤、パダンSG水溶剤に対する感受性の低下したコナガが認められたため、異なる系統のローテーション散布を行う。
	アブラムシ類	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。
イチゴ	炭疽病	平年並	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 □苗による本ほへの持ち込みを防ぐため、育苗中は予防散布を徹底する。 □発病株は感染源になり、降雨やかん水により急速に蔓延するため、発病が確認された株は直ちに抜き取って適切に処分する。 □窒素肥料の多用は発生を助長するため、適正な肥培管理に努める。
	ハダニ類	平年並	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ○8月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 □発生が多くなると防除が困難になるため、発生状況に注意し、発生初期の防除を徹底する。 □薬剤による抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

※コナガのトラップ調査結果

<http://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/00035185449.html>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

【野菜・花き全般】

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
うどんこ病	—	平年並	○8月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □予防散布に努める。 □早期発見に努め、り病した葉は除去して処分する。
アブラムシ類	—	平年並	○8月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。
ハダニ類	—	平年並	○8月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
オオタバコガ	—	やや多い	○8月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並からやや多い。 ○8月下旬現在、定点調査ほ場（甲府市、笛吹市、鳴沢村）におけるフェロモントラップへの誘殺数はやや多い。 □例年9月上旬から第三世代成虫が発生する。成虫の発生後は産卵と幼虫が見られるため、幼虫の食害痕や虫ふんを目安に早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
ハスモンヨトウ	—	平年並	○8月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。 ○8月下旬現在、ナス（笛吹市）の各定点調査ほ場におけるフェロモントラップへの誘殺数は平年並である。 □老齢幼虫には薬剤の効果が高いので、若齢幼虫のうちに早期防除を徹底する。 □卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら速やかに捕殺する。
アザミウマ類	—	平年並	○8月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。 □ほ場周辺の雑草は発生源となるので除草を徹底する。 □施設の場合、侵入防止のため施設開口部に防虫ネットを設置する。

※オオタバコガのトラップ調査結果

<http://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/00035185449.html>

ハスモンヨトウのトラップ調査結果

<http://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/00035185449.html>

【稲】

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
いもち病 (穂いもち)	—	平年並 ～ やや多い	○8月下旬現在、定点調査ほ場（中北・峡南・富士東部地域）における発生量は平年並からやや多い。 ○向こう1か月の降水量は、平年並の見込みである。 □コシヒカリなどの耐病性の低い品種では、発生状況に注意し、防除を徹底する。

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

【稲】

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
もみ枯細菌病	—	平年並	○8月下旬現在、定点調査ほ場（中北・峡南・富士東部地域）における発生量は平年並である。 ○向こう1カ月の気温および降水量は、ともにほぼ平年並の見込みである。 □前年、発生が多かったほ場や、育苗期に発生が見られたほ場では、穂ばらみ初期から乳熟期にかけて薬剤防除を行う。
ツマグロヨコバイ	—	平年並	○8月下旬現在、定点調査ほ場（中北・峡南・富士東部地域）における発生量は一部地域でやや多いが総じて平年並である。 □成虫及び老齢幼虫が株あたり30頭程度寄生している場合は、直ちに追加散布を行う。
ウンカ類 (セジロウンカ ヒメトビウンカ トビロウンカ)	—	平年並	○8月下旬現在、定点調査ほ場（中北・峡南・富士東部地域）における発生量は平年並である。 ○気象予報データを用いたウンカ飛来予測によると、8月の飛来予測回数は平年並～やや多い。 □今後の予察情報と発生状況に注意する。
斑点米カメムシ類 (ケホリカメムシ アカヒゲホソドリ カスミカ ホソリカメムシ)	—	やや多い	○8月下旬現在、定点調査ほ場（中北・峡南・富士東部地域）における発生量は一部地域でやや多くなっている。 ○8月下旬現在、県下各地の発生量は平年並からやや多い。 □穂揃期とその7～10日後の2回の薬剤散布を基本とするが、その後も発生が続く場合には追加散布を行う。

※水稲いもち病の定点調査結果

http://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/sakumotu_kekka.html

【大豆】

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
莢害虫類及びカメムシ類	—	平年並	○8月下旬現在、巡回調査ほ場（中北、峡南）の発生量は平年並である。 ○向こう1カ月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □着莢期以降10～15日間隔で2～3回、莢に十分かかるよう薬剤散布を行う。

【樹木類】

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
アメリカシロヒトリ	—	平年並	○8月下旬現在、定点調査ほ場（甲斐市、笛吹市）におけるフェロモントラップへの誘殺数は平年並である。 ○8月下旬現在、県下各地の発生量は平年並である。 ○向こう1カ月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。 □早期発見、早期防除に努める。 □公園、街路樹等の薬剤防除を行う場合は、飛散防止対策を徹底する。

※アメリカシロヒトリのトラップ調査結果はこちら

<http://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/ameshiro.html>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

Ⅲ 各病害虫対策

【モモ・スモモ】

○せん孔細菌病（モモ）、黒斑病（スモモ）

秋雨や台風による感染拡大を防ぐため、9月中旬～10月上旬の間に下表の薬剤を散布する。

作物名	散布薬剤
モモ	ICボルドー412（30倍）または4-12式ボルドー液を、2週間間隔で2回散布する。甚大な被害がでた地域は、2週間間隔で3回必ず散布する。 細菌は強風に伴う雨で広く拡散するため、防除は台風の接近や前線に伴う降雨前に必ず行う。なお、住宅隣接園ではムッシュボルドーDF（500倍）加用クレフノン（100倍）を用いる。ただし、薬害が発生するおそれがあるため、高温時の散布は避ける。また、「令和2年度病害虫防除所情報第7号」を参照する。 https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/documents/jyohoudai7gou.pdf
スモモ	ICボルドー412（30倍）を散布する。細菌は強風に伴う雨で広く拡散するため、防除は台風の接近や前線に伴う降雨前に必ず行う。

【モモ・スモモ・オウトウ】

○カイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ）

9月は、3回目の幼虫発生時期にあたるので、薬剤防除を徹底する。

【サツマイモ基腐病の対策】

近年、九州地域のサツマイモ産地において発生が確認され、被害地域の拡大が見られている。発病すると地際部から茎が枯れ、いもが腐敗する症状を引き起こすことにより、大幅な減収を生じる。本県での発生は確認されていないが、被害の蔓延を防ぐため、以下の点に注意する。

- (1) 未発生ほ場で生産されたことの確認などにより、健全な種苗を確保する。
- (2) 植え付け前の種苗消毒を行う。
- (3) 栽培期間中は、ほ場観察を通じて本病の早期発見に努め、発病株はほ場外に持ち出して適切に処分する。

本病の防除に関する詳細な技術対策については、農研機構のHPに掲載されている、以下のマニュアルを参照とする。

「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策（令和2年度版）」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138589.html

防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

ただし、他作物が隣接して栽培されている場合は、農業協同組合が作成した代替薬剤の防除暦等を参考に、薬剤を選択する。

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

IV その他

【農薬危害防止運動について】

6月から9月は「農薬危害防止運動」実施期間です。農薬を使用するときは次の事項に注意してください。

- (1) 毒物又は劇物に該当する農薬だけでなく、すべての農薬について、安全な場所に施錠して保管するなど、保管管理には十分注意する。
- (2) 農薬の調整又は散布を行うときは、ゴム手袋、マスク等の防護装備を着用し、取り扱いを慎重に行う。
- (3) 農薬散布をするときは、事前に関係者に連絡し、隣接住宅等に被害を及ぼさないよう風向き等に十分注意する。

(住宅地等における農薬使用について：

農林水産省ホームページ http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/jutakuti/ 参照)

- (4) 水田において農薬を使用するときは、止水に関する注意事項を遵守し、河川の汚染の防止等、環境の保全に努めること。
- (5) 使用残りの調整液や散布機具を洗浄した水の、河川や水路等への直接排水は極力避けること。
- (6) 農薬やその希釈液、残渣等を飲食品の空容器等へ移替えしないこと。
- (7) 農薬の空容器、空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等、適正に行う。
 - ・ 農薬使用者自身で、許可を受けた廃棄物処理業者に処理を委託する。
 - ・ J A等、地域共同で適正に回収処分する体制が確立しているところでは、当該システムにより処分する。

【防除機具の貸出について】

病害虫防除所では市町村、農協等に対して、防除機具一式の貸出を行っています。貸出に際しては事前に申請が必要なため、予め電話でお問い合わせください。

連 絡 先

山梨県病害虫防除所（山梨県総合農業技術センター調査部）

TEL 0551-28-2941

Eメール byogaichu@pref.yamanashi.lg.jp

インターネット

山梨県病害虫防除所ホームページ

予報対象作物を中心に「トラップ調査結果」「病害虫写真」等を掲載しています。

アドレス <https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/>

山梨県農薬適正サポートシステム

山梨県病害虫防除基準・農薬適正使用指針に掲載された農薬の最新登録内容を確認できます。

アドレス <http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/yamanashi>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/yamanashi>